

所報



平成12年6月



教育随想

広島市教育センター所長 角川 忠憲

あっちゃんのお父さんが「初めて子どもの言葉を心で聞いたような気がする」と言って、次のような話をしてくれました。

妻が外出中の日曜日の午後、パソコンに向かっているとき、一人で遊んでいたあっちゃんがやってきて、「お母さん、まだ帰らないの?」「夕方、ご飯までには帰ってくるよ」あっちゃんは「ふう〜ん」と言って、一人の遊びにかえっていきました。少しすると、またやってきて、同じ質問と答えを繰り返すこと2〜3回。何回目かと同じ質問をしたとき、こちらも少しイライラしていて、「さっきも言ったでしょう」「何回も同じことを聞きなさんな」と言った後、しまったと思いました。後の祭りです。あっちゃんは一瞬丸い目をし、顔を曇らせションボリと部屋を出ていきました。その後、あっちゃんは我慢に我慢を重ねていましたが、30分くらいしてやってきて、下を向いてまた同じ質問をしました。先程の後ろめたさも少しあって、「夕方、ご飯までには帰ってくるよ」「あっちゃんの大好きなお母さんが早く帰ってくるといいね」

と、よいしょ気味に応えました。あっちゃんは、嬉しそうな目をして「ウン」と頷き、後は母親が帰ってくるまで一人で遊びに熱中していました。自分でも何となく嬉しくなったそうです。

あっちゃんは自分の思いがお父さんに伝わったことで、安心して遊びに集中できたのでしょう。

自分にもよくあることですが、ピシャリと言ってしまったことは論外にしても、質問の内容にだけ答えるのではなく、言葉に表れない思いを汲んだ受け答えをすることが子どもには大切なんです。しかし、その時、自分の心に余裕がなければ、心の底から相手の言葉に耳を傾けることは出来ません。

その域に達したいと思いますが、道はなかなか遠いようです。

人間誰でも、自分を認めてくれる人がいると日々安心して過ごすことができ、自分に自信がもて、自分のことを好きになるようになれます。

子どもの言葉をしっかり聴き、みんなで心豊かな日々を送りたいものです。

もくじ

- 巻頭言 P. 1
- 研究の紹介 P. 2, P. 3
- 今年の研修講座紹介 P. 4

- 図書資料等紹介・教育用語解説 P. 5
- 教育実践のアイデア P. 6, P. 7
- 教育センターひろば P. 8

研究の紹介

指定都市教育研究所連盟編 第12次共同研究 「子どもがとらえた教育環境」

— 人・空間・時間・情報から何を学んでいるか —

教育センター主任指導主事（事）主任 板敷 憲政
指導主事 井坂 雅浩

当教育センターが加盟し、全国12の政令指定都市の教育センター及び教育研究所で組織されている指定都市教育研究所連盟では、共同研究を行っています。

大都市に住む子どもを対象に、子どもが毎日の生活の中で、何を考え、何を願い、何を求めているのかを明らかにしながら、そのような子どもたちに対し教師は、大人は、社会は何をなすべきかを考えてきました。

今回の第12次共同研究は、平成9年度から始まりました。テーマは「教育環境」で、調査は平成10年10月に実施しました。「人」「空間」「時間」「情報」の4つの視点から子どもの意識を探り、単に子どもを取り巻く教育環境に対する意識を明らかにするだけでなく、子どもたちがどのような影響を受け、何を学び、どのように自分の中に取り入れ、いかに自己形成しているのかという課題に迫ろうとしました。

当教育センターは、北九州市・福岡市の各教育センターとチームを組み、「空間」の章を担当しました。その一部を紹介します。

なお、調査の対象とした学年及び人数は次のとおりです。

○調査対象

- 札幌市 仙台市 千葉市 川崎市 横浜市
名古屋市 京都市 大阪市 神戸市 広島市
北九州市 福岡市 以上12の各都市における
- ・小学校第4学年児童 4,800名
 - ・小学校第6学年児童 4,800名
 - ・中学校第2学年生徒 4,800名
- 計 14,400名

1 今の子どもたちにとって教室とは

図1は、「あなたにとって教室とはどんなところですか」の問いかけに対する回答の集計結果です。

どの学年の子どもも、教室を「人と仲良く過ごすところ」と答えた子どもたちが最も多く、半数に達

し、次に「新しいことを学ぶところ」が続いています。小4から小6にかけて、「新しいことを学ぶところ」としてのとらえが減り、「人と仲良く過ごすところ」「人やもののよさを感じる場所」「自分らしさを出すところ」が増加し、教室を教科等の知識を得る場としてより、人とかかわる場として意識する子どもたちが多くなっています。

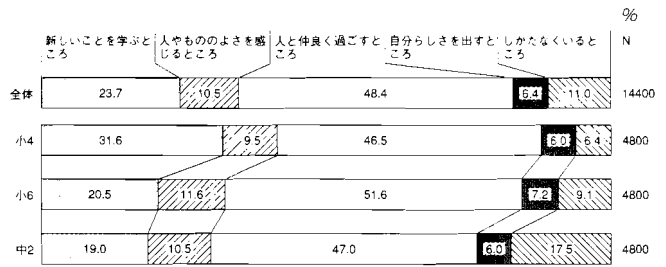


図1 「教室とはどんなところ」

2 求める先生像

図2は、前設問と「子どもがいいなと思う先生の姿」と重ね合わせて集計した結果です。

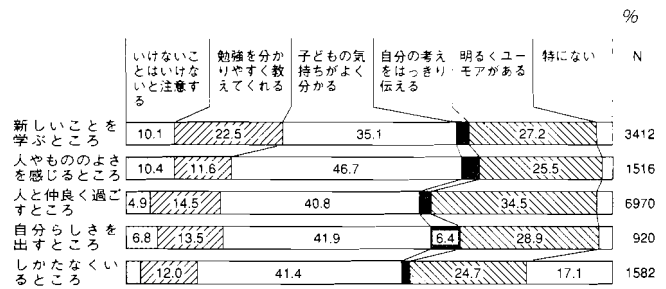


図2 「教室とはどんなところ」×「子どもがいいなと思う先生」

教室を「しかたなくいるところ」ととらえている子どもは、いいなと思う先生の姿が「特にない」と回答した割合が他と比べて高いものの、「子どもの気持ちがよく分かる」「明るくユーモアがある」を選択した割合が高く、他のとらえをした子どもと比べても、ほぼ同じ割合を占めている。

このことは、教室に対するとらえ方が様々であっても、どの子どもたちも、子どもの気持ちがかかる

明るい先生を求めており、そうした先生とのかかわりがあれば、教室は「しかたなくいるところ」から意味ある空間になることが考えられます。

3 子どもたちがやすらぎを感じる空間

図3は、「あなたが、一番気持ちがゆったりするのは、どのようなところですか」の問いかけに対する回答の集計結果です。

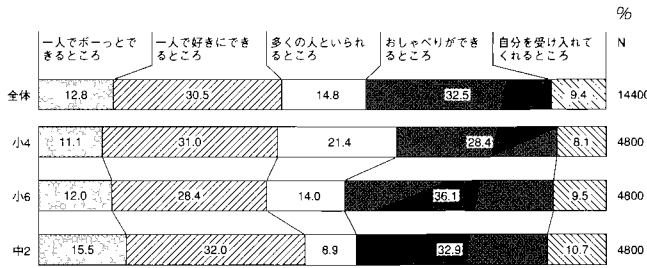


図3 「気持ちがゆったりするところ」

どの学年とも、大きく分けて一人で自由になる空間にやすらぎを感じる子どもと、人とのかかわりがある空間にやすらぎを感じる子どもの2つに分かれています。

やすらぎが感じられる空間の存在は、どの子どもたちにとっても必要不可欠なものです。精神的に豊かで安定した子どもに育って行くためには、子どもの嗜好に合うやすらぎ空間だけがあればよいということではなく、人とのかかわれる空間と自分の思いを達成できる空間が共存する必要があると思われます。従って、そのような空間を創り出すことが、より一層、やすらぎ空間の働きを増すことになると考えます。

4 子どもたちと空想空間とのかかわり

図4は、「あなたは、毎日の生活の中で、ふっと、ゲームや物語などの世界にいるようだと感じることはありますか」の問いかけに対する回答の集計結果です。

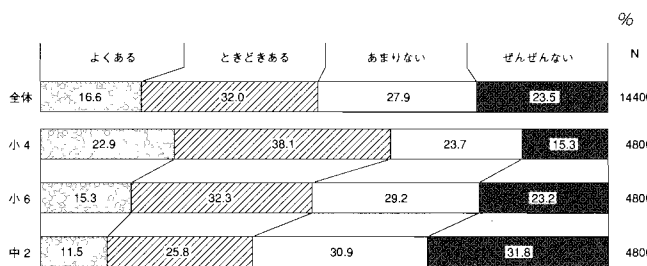


図4 「空想空間とのかかわり」

「よくある」「ときどきある」を選択した子どもたちは、小4の約6割から中2の約4割へと学年進行とともに減少しています。このことは、空想へのかかわりがまだ多い段階から、次第に現実に向けられていく子どもたちの成長の様子を表しているといえます。

それでは、空想空間は子どもたちにとってどんな働きがあるのでしょうか。

図5は、前設問と「将来を考えると」と重ね合わせて集計した結果です。

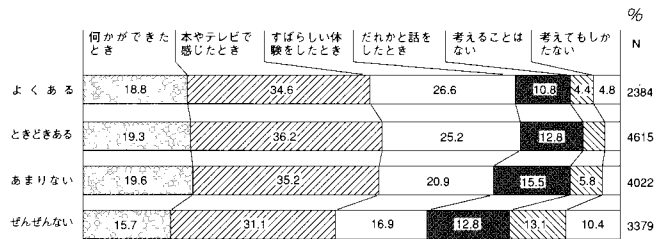


図5 「空想空間とのかかわり」×「将来を考えると」

「よくある」「ときどきある」「あまりない」と回答した子どもたちは、空想空間とのかかわりを意識している子どもたちです。

空想空間を意識している子どもたちは、「何かできたとき」から「だれかと話をしたとき」までの選択肢の合計が9割近くにも及び、自分の将来のことを考える時を多くもっていることが分かります。空想空間は、空想を膨らませ将来の夢や希望を育む重要な働きがあるといえます。

子どもがとらえた教育環境を分析・考察していくうちに「人とかかわり」の重要性が浮かびあがってきました。詳細については、下欄の本を本年3月に各学校・幼稚園で購入していただいていますので、是非ご覧ください。



東洋館出版社

定価 本体2,000円+税

この本は、書店で購入・注文することもできますが、教育センターに直接注文して取りに来ていただきますと、特別価格1,680円でお譲りしています。

(担当：首藤指導主事)

教育センターの研修講座で、新しい情報や実践にふれ

共に考え共に学びましょう

教職経験者研修講座Ⅰ（教職経験5年程度） 夏休み3日間の異業種体験研修から学ぶものは？
教職経験者研修講座Ⅱ（教職経験10年程度）
教職経験者研修講座Ⅲ（教職経験15年程度）

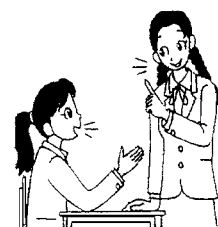
教務経営講座
校（園）内研修運営講座
学年経営講座
学校図書館研修講座

高等学校教育課題講座 今の高校生の意識や生活は？
生徒指導講座 講演「子どもの問題行動を防止する生徒指導と豊かな心の育成」
明星大学教授 高橋史朗
人権・同和教育講座 講演「豊かな人権文化の創造に向けて」
東京学芸大学教授 黒沢惟昭
情報教育講座 学級経営講座 学習指導講座 「総合的な学習の時間」特別講座

養護教員研修講座 児童生徒の疾病（生活習慣病、感染症等）に関する現状は？
学校事務職員研修講座 福祉社会の進展と福祉教育とは？

高等学校国語科指導講座 情報活用能力を育てる読みの指導とは？
中学校特別活動指導講座 ボランティア活動の充実を図る生徒会活動やガイダンスの機能の充実を図る
学級活動とは？
情緒障害教育指導講座 幼稚園教育指導講座 学級づくりに生かす教育相談講座
データベース活用講座 各教科指導講座

学社融合講座Ⅰ 社会教育施設を利用した自然体験の意味やよさは？
学社融合講座Ⅱ 学校と公民館が連携して行う国際理解教育とは？
学社融合講座Ⅲ 学校と社会福祉施設が連携して行う福祉教育とは？



教養講座 講演「学校教育に求めるもの」（仮題）
JT生命誌研究館副館長 中村 桂子

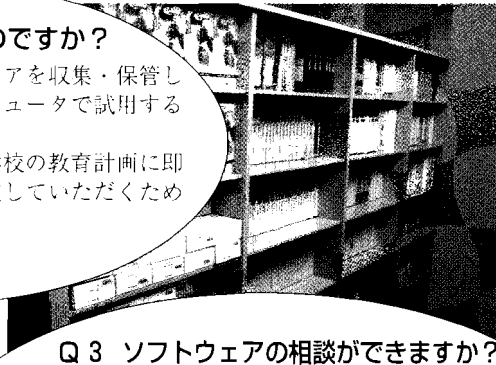
教育用ソフトウェアライブラリ



Q1 どんな施設なのですか？

約2000本の教育用ソフトウェアを収集・保管しており、それらを実際にコンピュータで試用することができます。

このような試用を通して各学校の教育計画に即した教育用ソフトウェアを選定していただくための施設です。



Q2 その他にどんなことができますか？

ワープロ文書のファイル変換やアンケート集計などの校務処理を行うことができます。また、書類等の印刷された文書をコンピュータで読み取り、フロッピーディスクなどに保存することもできます。

さらに教育センターの教育情報データベースや広島市立図書館の蔵書データベースの検索もできます。

Q3 ソフトウェアの相談ができますか？

専門の情報処理技術者が、教育用ソフトウェアの活用に関する個別の相談にお答えします。相談の内容については、特に制約はありませんので、お気軽にご相談ください。

なお、事前に電話で相談の内容あるいは日時等をご連絡いただければ、スケジュールを調整します。

教育情報データベース

教育情報として各教科・領域に関する学習指導案や総合的な学習の実践事例を38件収集してデータベースに登録し、その一覧を各学校（園）へ送付しました。

4階のソフトウェアライブラリで検索・閲覧・プリントアウトができますので職員に申し出てください。

プリント例

生活科学習指導案
 1 日時 平成〇年〇月〇日（日） 13:30～15:15
 2 学年 第1学年〇組 男子15名 女子14名 計29名
 3 単元 「なつなあそぼう！」
 4 単元について
 ○植物には7月に葉を茂らせ実を結ぶものもある。栽培している植物も、つぼみから花を咲かせ、子どもたちの楽しみを増してくれている。また、その植物にやってくる昆虫

ご利用ください

教育関係資料

教育図書・教育研究資料・視聴覚資料

教育図書及び教育研究資料は3階の図書資料室、視聴覚資料は4階のソフトウェアライブラリで閲覧・貸出をしています。

教科書センター

小・中・高・養護学校の教科書等を3階ロビーに展示しています。

○利用日時 月～金 9:00～17:00

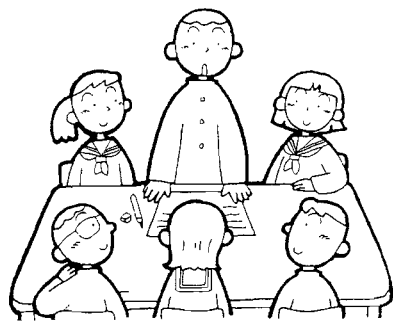
教育用語解説 「問題解決学習」と「課題解決学習」って同じなの？違うの？

問題解決学習は、子どもたちにとって身近で有意義な問題を解決させるなかで知識・技能を習得させる学習方法です。これに相對するものとして、知識・技能の系統的な習得を主軸とする系統学習があります。

我が国では、戦後の1940年代末から1950年代において問題解決学習が盛んに実践されましたが、子どもの直接的な生活経験を主題とし、活動主義に偏った学習になりがちであったため、知識の客観的な学習や技能の獲得にとって不十分だと批判された時期がありました。

問題解決学習では、子ども自身が問題をつかみ取るころから学習が始まります。しかし、複雑な社会問題など子どもが自ら問題を見つけだすことが困難な場合とか、さらに、教育上必須の学習内容を取り上げたい場合などには、教師が課題という形で問題を提起する課題解決学習が採用されるようになりました。もちろん、このとき教師の方から課題を一方向的に与えるのではなく、子ども自身が自分たちの問題として意識することが大切となってきます。したがって、課題解決学習は、問題解決学習に含まれる学習方法と解釈することもできます。

問題解決学習は、子どもの内的動機づけに支えられ、自発的・目的的な学習を可能にする方法であるという考えから、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる学習方法の一つとして、そのよさを見直していく必要があると考えます。



工夫しましょう

総合的な学習の時間

—子どもが、自分自身にとって切実で必然性のある課題を見つけることのできる、「ふれる」場の工夫—

担当：尾形

「総合的な学習の時間」の学習では、課題を子ども自身が見出すことが重要です。

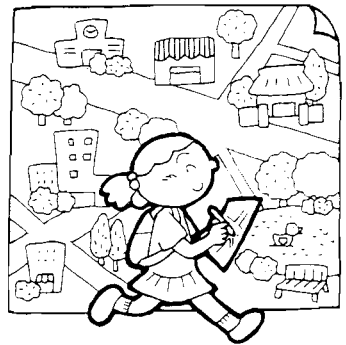
そこで、具体的な学習活動をつくっていく際に、子ども自ら課題を見つける「ふれる」場での学習活動を工夫したいものです。この場では、いかに子ども自身が、自分にとって切実で必然性のある具体的な課題を見つけ、その追究に向けての意欲をかき立てていくかが重要であり、子どもの主体的で創造的な学習を目指す「総合的な学習の時間」の学習の成否を握っていると言っても過言ではありません。

子どもにとって切実で必然性のある課題を見つけることができるようにするためには、「どうして?」「どうなるの?」などの疑問や、「調べてみたい」「やってみたい」などといった思いが生まれるような活動を「ふれる」場に設定し、ひたらせることが必要です。例えば、次のような活動が考えられます。

- ① 直接現場に行き、観察したり、聞き取りをしたり、資料収集をしたりする
- ② 専門家などから直接話を聞く
- ③ これまでの上級生の学習成果を見たり聞いたりする
- ④ 辞典や図鑑で調べたり、新聞記事やインターネットから情報収集したりする

これらの活動を、設定されているテーマに沿って具体化し、「ふれる」場の中に位置付け、少しゆとりのある活動時間を配当してみましょう。

そして、テーマに全体でしっかりと触れさせ、一人一人の子どもが課題を見つける過程をしっかりと見守り、子ども自身に追究の方向性をゆっくりと決めさせ、課題追究への意欲をかき立てていけるようにしたいものです。



取り入れてみましょう

家庭科(高)

—即興ディベートで生き方を考える力を育てる—

担当：前田

即興ディベートとは、あるテーマについて決められたルールに従って論争を行い、それを聞いていた聴衆の意見をどれだけ自分たちの側に変化させることができたかを競うゲームです。いわゆる競技ディベートを簡略化したもので、初めての人でもゲームを楽しめるものです。

例えば、「男に生まれた方が得か、女に生まれた方が得か。」や、「夫婦共働きで子どもが生まれ、妻は退職した方がよいか、仕事を続ける方がよいか。」などのテーマで即興ディベートを行います。

ゲームの進め方の概略は次の通りです。

- ① テーマを4つ提示し、話し合いたいテーマの希望調査を行い、クラスを8チームに分ける
- ② ゲームをしないチームを聴衆とし、判定シートを配布しゲーム前の意見を記入させる
- ③ 代表による主張と説得スピーチをする(各3分)

- ④ 作戦タイムをとる(3分)
- ⑤ 質疑応答をする(各チーム5分ずつ)
- ⑥ 作戦タイムをとる(3分)
- ⑦ 各チームの代表による反論や弁明とまとめのスピーチをさせる(各3分)
- ⑧ 判定をする。ゲームにより、賛成する聴衆が増えた方が勝ち、減った方が負けとする
- ⑨ 残りの時間で感想を話し合う

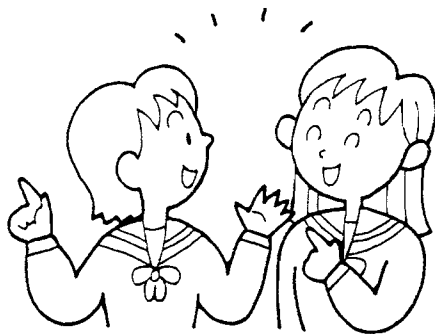
判定シート

| | | | |
|---------------------------------------|----|---|--|
| A | VS | B | |
| Aに賛成 かなり どちらかといえば ? どちらかといえば かなり Bに賛成 | | | |
| ゲーム前の意見 | | | |
| ゲーム後の意見 | | | |
| 意見感想 | | | |

生徒が他の人の多様な考え方に触れ、生き方についてより深く考えさせることができます。

【参考文献】

牧野カツコ「人間と家族を学ぶ家庭科ワークブック」1996 国土社



授業実践を見つめ直してみよう

社会科(中)

—子どもが「必然性」や「可能性」、「参加性」について考える授業づくりを—

担当：吉竹

「子どもに何をどのように分からせるべきか、また分からせる必要があるのか。」これは、教師側からの認識の論理に基づいて授業づくりをすすめる方法です。一方、「子どもは社会や歴史について何を知っていくのか、またそれらをどのように認識していくのか。」これは、子どもの認識の心理に基づいて授業づくりをすすめる方法です。これまでの授業づくりは、どちらかと言うと、前者の方法が重視されて行われてきた感があります。学習の醍醐味は、社会や歴史について自分なりの見方やとらえ方から、「問い」をつくり・追究し、また「問い」をつくる…といった経験を重ねることにあります。

そこで、子どもに、どのようなことを考えさせればよいのかを検討する必要があります。子どもに社会や歴史の「必然性」や「可能性」、社会への「参加性」について考えさせてはどうでしょうか。

「必然性を考える」とは、「なぜAは、されなくてはならなかったのか」を考えることです。例えば、「なぜ石田三成は徳川家康と関ヶ原で戦わなくてはならなかったのか？」などがこれに当たります。

「可能性を考える」とは、「A以外にBやCということができないのか」を考えることです。例えば、「なぜ九州ではとんこつラーメンがよく食されているのだろうか。味噌ラーメンや醤油ラーメンではいけないのだろうか？」などがこれに当たります。

そして「参加性を考える」とは、「このような社会に対して自分(たち)には何ができるのか」を考えることです。例えば、「ごみをださない、つくらない社会になるためには、自分には何ができるのだろうか？」などがこれに当たります。

このような「問い」は、子どもにとって、社会や歴史との接点を生むことになり、社会や歴史の本質や意味について追究させるきっかけとなります。「問い」を追究する過程で、子どもは様々な素材や人々とかかわることになります。それは、なぜでしょうか。このような「問い」を解決するためには、自然環境や政治・経済の視点、文化・歴史や倫理の視点などから追究することが必然的に生まれるからではないでしょうか。

「遊びの指導」を見つめ直してみよう

障害児教育

—子どもたちの遊びを豊かにするために—

担当：首藤

障害のある子どもの教育では、「遊びの指導」や遊びを取り入れた学習が重要視されています。

遊びが言語、概念、想像性、対人関係、知覚・認知、運動面などに全体的な発達を促すことが認められているからです。

今回は、子どもたちの遊びを豊かにするための「遊びの指導」についてまとめてみます。

○ 「遊びの指導」について

子どもたちは、遊びたいから遊ぶのであって、何かを身に付けたり、もっとよくできるようになりたいと考えて遊んだりするわけではありません。遊びの指導は、「遊ぶために遊ぶ」という子どもたちの思いや願いを尊重しなければなりません。つまり、子どもの遊びそのものの充実を求める方向で行われるべきです。

○ 障害のある子どもの遊びを豊かにするために遊びを大切にしたい、自由にのびのびと遊んでほしい

いと願っても、障害のある子どもは、遊びの体験そのものが少なく、限られた遊びや人とのかかわりが薄い遊びが多くなってしまいがちです。したがって、遊びそのものを十分体験させたり、さらに遊びが発展し豊かになるための支援をしたりする必要があります。

それでは、「遊びの指導」においてどのような具体的な支援を行えばよいのでしょうか。次の5点にまとめてみました。

- ① プレールームや遊具コーナーのような遊びが生まれる場や道具を設ける
- ② 遊びが発展しそうな遊具や物を置く
- ③ 教師も交じって楽しく遊んだり、誘いかけたりする
- ④ 例えば、ボールを投げたり蹴ったりするだけでなく、落としたりころがしたりするなど、違う用途で使ったり、違う発想の活動を示したりする
- ⑤ ずっと一緒に遊ぶ など

以上のような、「遊びの指導」においては、子どもの側の楽しさ、面白さ、遊ぶ活動の面から支援することが、大切になってきます。

職員・分掌

| 事業等 | 職名 | 職員 | 担当業務 |
|-------|---|--|--|
| | 所次 長 | 角川 忠憲 財津 伸子 | 所務総括 所務管理・執行 |
| 管理部 | 庶務 主任 経理 主任 | 中佐 正司 伯江 敬子 | 管理部総括 予算・決算、文書、経理等 予算・決算、施設設備、経理等 |
| 研究部 | 教育研究 主任 指導主任 | 木村 正信 森下 幸子 首藤 龍磨 | 教育研究部総括、生活科、特別活動、社会教育 教育研究・調査、教育実践（園）校・教育研究生研究等、国語科 研究物刊行等、障害児教育 |
| 調査部 | 教育調査 主任 指導主任 (兼)主任指導主任 | 砂原 文男 井坂 雅浩 尾形 慎治 三原 裕隆 | 教育調査部総括、生徒指導、教育相談 教育調査等、教育課程編成支援、音楽科 校内研修支援、カリキュラムセンター研究等、算数科・数学科 教育機関連携等、生徒指導、教育相談 |
| 研修部 | 研修 主任 指導主任 指導主任 指導主任 指導主任 | 吉竹 邦昭 永岡 敏彦 名和 原恵理 藤村 和彦 二井 賢二 安井 忍 | 研修部総括、社会科、地理歴史科、公民科、道徳 管理職研修、研修講座等、学校経営 経験者研修、研修講座等、幼稚園教育 初任者研修、長期研究生研修等、外国語（英語）科 研修・実習の補助、指導主任の補佐等 研修・実習の補助、指導主任の補佐等 |
| 情報教育部 | 情報教育 主任 指導主任 指導主任 指導主任 指導主任 | 板敷 憲政 松浦 俊雄 前田 憲磨 住吉 磨二 辻 剛二 大下 千賀子 | 情報教育部総括、理科 ソフトウェアライブラリ、教育情報管理等、理科 図書資料室、教育情報管理等、家庭科、技術・家庭科 教育工学、視聴覚教育、情報科 研修・実習の補助、指導主任の補佐等 図書資料室管理関係事務 |



教員長期研修研究員（平成12年4月～平成13年3月）

校内研修：杉浦 透（井口明神小学校）
校内研修：松浦 泰博（安佐南中学校）

職員の異動

- * 離退任** ～在職中はお世話になりました～
大園 隆久 所長（退職）
入江 哲男 主幹(事)主任（広島市水産振興協会へ）
小滝 祥治 研修指導員（退職）
- * 就任** ～どうぞよろしく～
角川 忠憲 所長（大手町商業高等学校から）
中 正司 主幹(事)主任（郷土資料館から）
住吉 磨 指導主事（祇園中学校から）
安井 忍 研修指導員（城南中学校から）

教員長期研修生（平成12年4月～9月）

今年度前期は次の7名の先生方が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

- 算数科教育：安田 仁（己斐小学校）
道徳教育：高田 純子（可部小学校）
教育相談：矢田久美子（矢賀小学校）
理科教育：橋本 裕治（井口台中学校）
技術・家庭科教育：西名 憲治（祇園東中学校）
外国語(英語)科教育：西川 和子（古田中学校）
国語科教育：沖森 和人（広島工業高等学校）

題字 広島市立宇品中学校長 西平 克宏
表紙絵 広島市立伴小学校長 松元 利夫

編 集 後 記

移行期の各教科・領域における教育実践の在り方について、毎日のように熱心な研修が続いています。本年度も教育センターは、研修講座や随時研修等を通して各学校・園の教育実践を支援していきます。

編集・発行／広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号

TEL(082)223-3563 FAX(082)223-3580

E-mail: center@hcec.ed.jp（メールアドレスが新しくなりました） 広X6-2000-056